

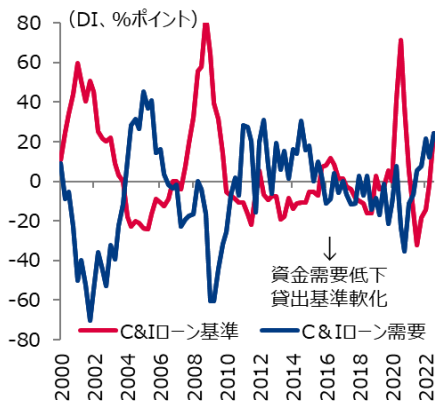
## 米国

銀行融資担当者調査（2022年4-6月期）

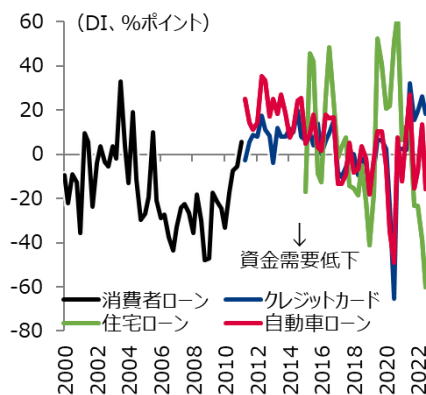
## 企業の資金需要は強いなか、融資基準は厳格化の方向に

政策・経済センター  
田中嵩大  
03-6858-2717

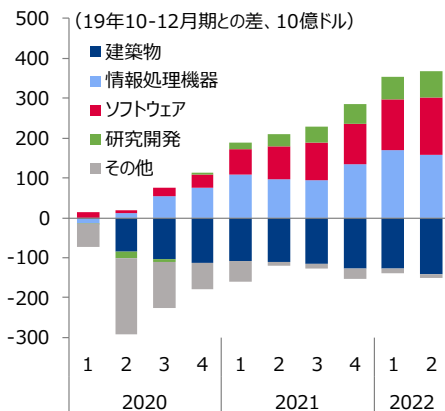
## 1 商工業ローン需要・融資基準

注：大・中企業向けの商工業ローン。  
出所：FRB "Senior Loan Officer Survey"

## 2 消費者ローン需要

注：住宅ローンは、GSE（政府関連機関）適格モーゲージ。  
出所：FRB "Senior Loan Officer Survey"

## 3 設備投資の内訳

注：季調済年率。  
出所：米国商務省より三菱総合研究所作成

## 4 社債市場ディストレス指数

注：新発債価格や流動性等から産出。6月から公表開始。  
出所：ニューヨーク連銀より三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 先週、22年4-6月期の銀行融資担当者調査が公表された。6月FOMC後の22年6月16日-30日に調査が実施された。
- 企業向けの商工業ローン需要DI（C&Iローン、大・中企業向け）は堅調さを保っているものの、金融機関の融資基準は厳格化しつつある（図表1）。一方、消費者向けローンでは、金利の上昇を受けて住宅ローン需要が急減、自動車ローンも低下した一方で、クレジットカード需要は堅調を保っている（図表2）。

## 基調判断と今後の流れ

- 利上げの影響や景気後退懸念によって、企業・個人の資金需要や資金調達環境に変化が出始めている。
- 最も需要減少が顕著なのが住宅ローンだ。利上げに伴う長期金利の上昇から、22年4-6月期の住宅投資は前期比年率▲14.0%と大幅に減少。長期金利の上昇は一服の兆しが見えるが、供給制約による住宅価格高止まりが予想される中で、住宅ローン需要も低調に留まろう。
- 一方で、企業の資金需要は堅調だ。背景として、手元流動性の確保や在庫・売掛金のための資金需要など、予備的な需要に加え、設備投資やM&A需要が堅調なことが指摘されている。
- そうした中で懸念されるのが、金融機関の融資基準の厳格化だ。過去局面では、融資基準が厳格化された時期には資金需要は減少していたが、今回は資金需要が堅調な中、経済の不確実性の高まり等を理由に基準が厳格化しつつある。
- 先行きは、景気減速や金利上昇に伴うリスク許容度の低下によって、融資基準はさらに厳格化するとともに、企業の投資需要も減少していくだろう。
- ただし、ICT投資や研究開発投資など、コロナ危機後に増加した投資需要（図表3）は今後も根強いことが予想される。社債などによる資金調達も厳しくなるなか（図表4）、融資基準の厳格化が進めば、短期的な資金繰りの悪化に留まらず、前向きな投資の抑制によって中長期的な成長にも影響を与えかねない。